

第6章 施設・設備

- 6.1 教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況
- 6.2 施設・設備等を維持管理するための学内の責任体制の確立状況

第6章 施設・設備

6.1 教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況

【現状の説明】

(1) 概要

名古屋の北東部、緑豊かな丘陵地帯に位置する本学では、「建学の精神」と「基本理念」に沿って設定した教育、研究、社会貢献の使命を実現するため、施設・設備等の充実を心掛けてきた。

キャンパス計画としては、1962年の短期大学開学から1969年までの間を第Ⅰ期から第Ⅳ期までに分けて整備し、その後、「キャンパス委員会」「建築委員会」を発足させて広く関係者の意見を取り入れ、中長期の建築計画及び財政計画を立案し、着実に整備してきた。

近年では、2008年度に開設した現代教育学部の設置にあたって、講義室、研究室、実験室などの施設を整備するため、70号館、71号館、72号館（いずれも2009年度竣工）を建設した。また、生命健康科学部の新学科設置に対応するため、55号館（2008年度竣工）を建設し、施設・設備等の充実に努めた。

また、新学科の学年進行に伴う学生数増加に対応するため、22号館増築、52号館新築などの建設工事が進行中である。

(2) 校地

表6-I-1に示すとおり、大学設置基準第37条による基準校地面積8.7万㎡に対し、約59.0万㎡の校地を有しており、校地面積は約50万㎡の余裕がある。

主たる校地は愛知県春日井市松本町に所在し、その校地（春日井キャンパス）面積は約35万㎡である。また、岐阜県恵那市に校地（恵那キャンパス）約24万㎡を所有しており、その自然林の中に宿泊・研修施設や運動施設を設置している。この他、大学院経営情報学研究科では、春日井キャンパスにおける昼間開講の他に、名古屋キャンパス（名古屋市中区千代田）において夜間開講している。

表6-I-1 校地・校舎の大学設置基準との比較

校地等	区分	校地面積 (㎡)	設置基準上 必要な面積 (㎡)	在籍学生ひとり 当たりの面積 (㎡)
	校舎敷地	441,800.3		
	運動場用地	140,346.3		
	小計	582,146.6		
	その他	8,003.0		
合計	590,149.6			
校舎	校舎面積 (㎡)		設置基準上必要な面積 (㎡)	
		159,374.3		72,877.9

(3) 校舎

主たる校舎は46棟あり、それ以外の建物も合わせた延床面積は約18万㎡である。表6-I-1に示すとおり大学設置基準上の校舎面積は約15.9万㎡であり、大学設置基準第37条および附則による基準校舎面積を約8.6万㎡上回っている。(主な建物は表6-I-2参照)

2011年5月現在、8割以上の建物が耐震性を備えており、残り2割の建物についても2015年度完了を目標に順次、耐震補強工事を進める予定である。

表6-I-2 校舎等主な建物(春日井キャンパス内)

名称	延べ面積 (㎡)	地上 (階)	地下 (階)	主要施設
1号館	3,450.60	3		理事長室、学長室、事務局(教務部、学生部、学務部、財務部)
2号館	8,118.47	4		研究室、実験室、事務局(キャリアセンター、広報部、管財部、総務部)、渉外局
3号館	2,640.89	2		実験室、デジタルラボ、生産技術開発センター、分析計測施設
5号館	9,891.48	4		研究室、実験室、ゼミ室、講義室、メディア教育センター
6号館	2,739.56	5		研究室、実験室、ゼミ室、講義室
7号館	4,748.43	10		研究室、実験室、ゼミ室
8号館	3,280.66	3		実験室、ゼミ室、CAD教育施設、製図室
9号館	8,478.34	5		講義室、研究室、学生ラウンジ、ゼミ室、保健管理室
10号館	6,820.30	6	1	講義室、ゼミ室、学生ラウンジ、コンピュータコンサルテーションセンター
11号館	2,446.30	4		研究室、実験室、講義室
12号館	1,558.41	1		第1学生ホール(学生食堂)
15号館	804.00	2		講義室
16号館	5,744.06	10		実験室、実習室、研究室、研究支援センター
17号館	906.71	2		研究室、実験室
18号館	2,614.04	2		材料構造実験施設
19号館	3,064.79	3		語学センター、LL教室、SIルーム、製図室、第2学生ホール(学生食堂)
19号北館	1,027.93	3	1	学生ラウンジ、製図室、温室
20号館	5,575.56	12		研究室、ゼミ室、メディア教室、日本語教育センター、学生ラウンジ
21号館	5,340.25	6		研究室、ゼミ室、講義室、学生ホール(学生食堂)
22号館	2,830.37	3		学術情報センター実習室、自習室、講義室
23号館	1,691.25	3	1	リサーチセンター(実験室)、中部高等学術研究所
24号館	1,834.10	3		学術情報センター
25・26号館	9,153.51	4	1	研究室、ゼミ室、講義室、第3学生ホール(学生食堂)
27号館	1,811.19	4		講義室、メディア教育センター
29号館	2,016.21	5		クラブ・サークルプラザ(クラブ室)、体育・文化センター事務室
30号館	6,512.35	11	1	研究室、実験室、講義室
31号館	1,104.41	2		アイソトープセンター、講義室
32号館	2,055.94	5		実験室、実習室
33号館	3,624.99	7		実験室、研究室、実習室
36号館	985.14	2		実験室、ゼミ室、実習室
50号館	8,822.14	12		研究室、実験室、ゼミ室、講義室
51号館	5,291.24	4		研究室、ゼミ室、講義室、実習室、学生ホール(学生食堂)
53号館	2,116.21	4		実験動物センター(実験室、飼育室)
55号館	6,566.64	7		講義室、研究室、実習室、ヘルスサイエンスヒルズ実験室
70号館	3,548.06	6		研究室、ゼミ室、演習室
71号館	3,124.29	4		講義室、実習室、ピアノ室、多目的室
72号館	2,886.18	4		実習室、演習室、講義室、ゼミ室
フロンティア研究棟	656.90	3		実験室
超伝導研究センター	591.88	2		実験室、研究室
体育館・クラブ棟	5,270.95	3	1	メインアリーナ、サブアリーナ、クラブ室
武道館	1,185.60	1		武道場(柔道、剣道)
図書館	8,231.80	3	2	図書室、閲覧室、書庫、民族資料博物館
体育・文化センター	3,230.41	3		屋内温水プール、ウエイトトレーニング室、卓球場
メモリアルホール	1,473.96	2		講堂、三浦幸平記念室
キャンパスプラザ	3,729.71	3		国際交流センター、学生相談室、学生ラウンジ、食堂、売店

(4) 教育用施設・設備

① 講義室・演習室等

授業等で使用する講義室・演習室等は表6-I-3に示すとおりである。ほぼ全ての部屋に視聴覚設備及びネットワーク接続環境（有線または無線）を備えている。なお、本学大学院はいずれも学部に基づいており、学部が管理する演習室は大学院の授業等でも使用されている。

表6-I-3 講義室・演習室の概要

学部・研究科等	講義室・演習室等	室数	面積の合計 (m ²)	備 考
全学共用	講 義 室	62	8,773.0	
	演 習 室	42	2,826.8	
	学生自習室	6	1,014.6	
工学部	講 義 室	5	1,007.8	
	演 習 室	62	2,635.6	
経営情報学部	講 義 室	5	899.0	
	演 習 室	20	693.4	
国際関係学部	演 習 室	10	328.9	
人文学部	講 義 室	22	2,623.9	
	演 習 室	13	661.9	
応用生物学部	講 義 室	2	347.3	
生命健康科学部	講 義 室	8	1,319.7	
	演 習 室	22	906.7	
現代教育学部	講 義 室	2	298.9	
	演 習 室	15	673.3	
	学生自習室	1	253.6	
工学研究科	院生研究室	17	405.1	
	大学院実習室	4	172.5	
	大学院演習室	2	69.4	
	そ の 他	1	18.0	
経営情報学研究科	講義室(名古屋キャンパス)	4	141.9	国際人間学研究科と共用
	演 習 室	2	54.6	
	演習室(名古屋キャンパス)	4	51.6	国際人間学研究科と共用
	院生研究室	3	91.5	
	院生研究室(名古屋キャンパス)	1	21.5	国際人間学研究科と共用
国際人間学研究科	講 義 室	3	78.9	
	講義室(名古屋キャンパス)	4	141.9	経営情報学研究科と共用
	演習室(名古屋キャンパス)	4	51.6	経営情報学研究科と共用
	院生研究室	6	215.4	
	院生研究室(名古屋キャンパス)	1	21.5	経営情報学研究科と共用
	そ の 他	1	21.8	
応用生物学研究科	院生研究室	5	140.5	
	大学院実験室	5	256.2	
生命健康科学研究科	院生研究室	1	28.1	

② 実験室・実習室

授業等で使用する実験室・実習室は134室（16,867.6㎡）が整備されており、各学部または所管のセンターにより管理されている。各実験室・実習室にはその目的に合わせた設備が設置されており、所管部署により維持・管理されている。

③ 図書館

学内に附属三浦記念図書館が設置されており、その概要は表6-I-4に示すとおりである。なお、近年の新学部・新学科の設置による学生数、蔵書数の増加に対応するため、現在、図書館の増築工事（2012年度竣工予定）が進行中である。

表6-I-4 附属三浦記念図書館の概要

図書館の名称	面積(㎡)			学生閲覧室 の座席数	開館日数	
	全体	閲覧スペース	書庫スペース		週あたり	年間
附属三浦記念図書館	8,231.8	5,421.8	2,669.4	805	6	276

④ 情報関連施設

学内には表6-I-5に示す情報関連施設が整備されており、授業及び自習に使用されている。

表6-I-5 情報関連施設の概要

情報センター等の名称	座席数	PC台数	年間総利用時間数		開館日数	
			授業利用 時間数	授業外利用 時間数	年間	週あたり
学術情報センター	453	341	86219.4		274	6
9・10・19・25号館、キャンパスプラザ	56	56	0.0	58,132.5	274	6
デジタルラボ	110	107	1,200.0	400.0	290	6
CAD教育施設	135	131	588.0	1,500.0	230	6
語学メディア教室 A	41	41	192.0	5.0	169	5
語学メディア教室 B	20	20	36.0	0.0	169	5
SIルーム	38	17	0.0	1,595.0	195	5
CGルーム	20	20	504.0	162.0	360	6
共同計算機室	48	28	360.0	294.0	360	6
マルチメディア教室	48	48	612.0	864.0	155	5
心理学科データ分析室	130	130	432.0	1,408.0	230	5
人文学部3学科共同実習室	72	54	945.0	1,120.0	280	6
現代教育学部パソコン実習室	72	12	292.5	50.0	240	5
名古屋キャンパス 5F 演習室	30	22	90.0	3,144.0	262	5

⑤ 体育施設

屋内施設として、講堂を兼ねた2つの体育館（メインアリーナ、サブアリーナ）の他、武道場、弓道場、屋内温水プール、ダンススタジオ、ウエイトトレーニング室、卓球場、野球部室内練習場がある。

屋外施設として、人工芝で整備された全天候型グラウンド（メイングラウンド、サブグラウンド）、野球場、アーチェリー場、テニスコートがある。

⑥ 民族資料博物館

国際関係学部の国際交流の中で収集した資料を保管・展示してきた民俗資料室を改組し、更に世界各地の歴史的・文化的価値の高い資料を追加して、民族資料博物館を2011年度に開設した。

(5) 福利厚生施設

福利厚生施設として、学生食堂7ヶ所（第1学生ホール、第2学生ホール、第3学生ホール、21号館学生ホール、51号館学生ホール、マクドナルド等）、喫茶室1ヶ所、自動販売機コーナー2ヶ所、コンビニ二等売店4ヶ所、書籍文具販売1ヶ所、保険代理店、旅行代理店、郵便局、A T Mが設けられている。

(6) 校外施設

① 中部大学研修センター

敷地面積約24万㎡の自然林の中に宿泊・研修施設や運動施設が点在している。中央棟、宿泊棟3棟、研修棟及び体育館からなり、その他屋外施設として、総合グラウンド、野球場、テニスコート、ゴルフ場（6ホール）、1周2.7kmのトリムコースがある。

② 新穂高山荘

北アルプスの麓、新穂高温泉郷のほぼ中央に位置し、溪流に沿った約1.6万㎡の土地に、学生、教職員の福利厚生施設がある。山荘本館、山荘別館、不言山荘、研修棟、浴室棟（露天風呂付温泉施設）であり、70～100人を収容できる施設となっている。

(7) その他の施設

学内には7つの学生寮が整備されており、地方学生、留学生らが入寮している。

【点検・評価】

(1) 全般

大学設置基準を上回る校地、校舎を整備し、その施設・設備等は質及び量の両面において教育課程の運営に十分な水準にある。また、これらの施設・設備等は良好に整備され、有効に活用されている。

(2) 校地・校舎

本学は、すべての学部・大学院の教育研究施設、体育施設が春日井キャンパス内に集結しているため、教育、研究、課外活動において分野を越えた良好なコミュニケーションが実現されている。また、開学当時から里山の自然と丘陵地を利用した造園計画に基づいて整備してきたことにより、緑の多い、静かで落ち着いた教育環境にある。

キャンパスの整備に関しては、新学部・新学科の設置に対応した工事が、現在工事を進めている22号館増築、52号館新築の完成により完了する。その一方で、一部に施設の老朽化が進んでいる校舎も存在するため、今後はそれらの建物について計画的に修繕・改修を進める必要がある。また、より良い教育環境を実現するために建物の建て替えも検討し、常に時代のニーズに合った魅力的なキャンパスとなるよう整備を続けていく必要がある。

(3) 教育用施設・設備

① 講義室・演習室等

講義室・演習室等のうち、春学期190室、秋学期191室について稼働率の調査を実施した。その結果を表6-II-1に示す。

この結果から、小規模（60人以下）の部屋は稼働率が低い一方で、中規模以上の部屋は稼働率が高く不足感が感じられるため、小規模の部屋を統合して収容人数を増やすなどの方法で、中規模以上の部屋の不足感を緩和する必要がある。

また、ほぼ全ての講義室、演習室には視聴覚設備が導入されているが、TVの地デジ化やハイビジョン規格の普及による映像の高解像度化に対応するため、計画的に設備更新を進めていく必要がある。

表6-II-1 講義室・演習室等の稼働率（2011年度）

収容人数	室数 (春学期/秋学期)	春学期	秋学期
1～30	60/58	19%	20%
31～60	39/38	38%	40%
61～90	6/6	64%	50%
91～120	41/43	66%	63%
121～150	14/13	55%	50%
151～180	11/13	75%	55%
181～210	6/6	59%	61%
211～300	10/11	63%	52%
301～	3/3	51%	36%
全体	190/191	44%	42%

注)各部屋の1～8時限の稼働率より算出(但し、水曜日は1～6時限、土曜日は1～4時限)

② 実験室・実習室等

本学は7学部の内3学部が理系学部で構成されているため、多くの実験室・実習室を備えている。

工学部については以前より学科予算とは別に設備更新予算をとり、高額の実験・実習用機器について計画的に更新を行っている。

応用生物学部、生命健康科学部についても、設置から10年経過または近々10年を迎えるため、計画的に実験・実習用機器の更新を進めていく必要がある。

③ 図書館

教育・研究を推進するための情報資源である図書や学術雑誌等を集中的に提供することを目的に設置され、内容、規模ともに充実した施設として活用されている。

しかし、近年の新学部・新学科の設置により蔵書数と利用者数が飛躍的に増加しているため、図書館の増築工事（2012年度完成予定）が進められている。増築工事が完了した段階では、書籍収容能力で1.8倍、閲覧席数で1.2倍の拡大が見込まれる。また、増築に伴い視聴覚エリアのリニューアルやラーニングコモンズの設置なども予定されている。

④ 情報関連施設

近年の急速な情報化社会の進展に合わせて、本学にも多くの情報関連施設が設置されている。これらの施設は技術進歩に合わせて定期的に更新されており、今後も設備が陳腐化することの無いよう計画的に更新を進めなければならない。

⑤ 体育施設

屋外運動場、体育館などの体育施設が一つのキャンパス内にあるため、正課授業と課外活動で効率良く利用されている。なお、老朽化が進み、施設としても手狭である武道館については、これを取り壊し、それに代わる武道体育館の建設（2012年度完成予定）が進められている。

⑥ 民族資料博物館

歴史的・文化的価値の高い資料を教育・研究の素材として活用すると同時に、学外者への公開、セミナー等の開催により社会貢献活動にもつなげている。

(4) その他の施設

その他の施設も良好に維持・管理され、学生・教職員に活用されている。

【質保証のための課題と継続的改善・改革に向けた方策】

◇学内の一部に老朽化した施設が存在するため、計画的に修繕、改修、建て替えを進めなければならない。現時点では、老朽化のため取り壊しを予定している武道館の跡地に、やはり老朽化が見られる工学部の建物の新棟を建築する計画を立案中である。また、古くなったトイレなどは、利用者の要望を受けて今後も順次更新していく。

◇技術の進展に合わせて、授業等で使用する設備の計画的更新を進める。特に、映像装置（プロジェクタ等）のワイド化、映像信号のデジタル化への対応は急務である。

◇中規模以上の講義室が不足しているため、小規模講義室・演習室の統合や講義室の新設により稼働率を平準化する必要がある。

以上の他、今後も教育研究環境に関する学生・教員の要望を十分に把握し、施設・設備等の整備を図っていく。

6.2 施設・設備等を維持管理するための学内の責任体制の確立状況

【現状の説明】

(1) 概要

施設、設備等の管理については「固定資産及び物品調達規程」（1999年4月1日制定）、「固定資産及び物品管理規程」（2000年4月1日制定）により、管財部を中心として現状に即した管理を行っている。

(2) 防火・防災関連

2009年度に、これまでの「中部大学防災管理規程」（1998年4月1日制定）を廃止し、新たに「中部大学防火・防災管理規程」（2010年2月17日制定）を制定して、防火、防災に対する体制の見直しと強化を図った。

新たな規程では「防火・防災管理委員会」を設置し、防火・防災管理業務の確実な実践に努めている。

また、具体策については、前記委員会の専門部会である「防災対策協議会」において検討し、毎年計画的に防災訓練、法定点検および自主検査等を実施している。

(3) 安全・衛生管理

① 耐震化

建物の耐震化については、1997年（平成9年）に、全国に先駆けて9号館を既存の建物をそのまま免震化する「免震レトロフィット」による免震構造に改修して以来、旧建築基準で建設されている建物を順次耐震診断し、耐震補強工事を計画的に進めている。2011年5月現在、8割以上の建物が耐震性を備えている。

② 廃棄物

特別管理型産業廃棄物（薬品）、特別管理一般廃棄物、感染性廃棄物については、法令に基づき専門業者と委託契約を結び適切に管理している。

③ その他

◇アスベストの使用状況の調査を行い、適切な処置を完了している。

◇バリアフリーのキャンパスづくりにも取り組んでいる。

(4) 環境対策

これまでも「省エネルギー推進委員会」を中心に省エネ点検などを実施し、環境対策に取り組んできたが、東日本大震災に伴う電力需給逼迫に対応するため、2011年度に「省エネルギー委員会」を設置し、空調設備の稼働時間や温度設定の見直し、省エネ機器の導入推進など、全学的にもう一段の消費電力削減に取り組んでいる。

また、学内では6分別ゴミ箱による資源回収や産業廃棄物の分別を行い、ゴミの減量、リサイクルに積極的に取り組んでいる。

(5) 維持管理体制

土地、施設、設備、植栽の維持管理は管財部が担当し、小規模な修繕、維持、管理に関しては管財部施設設備課員が直轄で行っている。それ以外の下記項目については、各々専門業者に委託している。

◇キャンパス内清掃管理

◇樹木の剪定

◇芝生除草剤散布

◇空調設備保守点検

◇エレベーター保守点検

◇受変電設備、非常用発電設備保守点検

◇電話交換機、弱電設備保守点検

◇浄化槽保守点検

◇グリストラップ保守点検

◇受水槽清掃

◇消防設備保守点検

◇（建物内）空気環境測定、害虫生息調査

- ◇視聴覚設備の保守点検
- ◇講義室什器類の保守点検

【点検・評価】

(1) 全般

各施設・設備は、施設設備課、専門委託業者によって常時点検整備され、適切に管理されている。また、専門委託業者による法定点検作業を実施し、利用者への快適な環境を提供している。

(2) 耐震化

耐震補強工事は学生利用度の高いものから進め、2011年5月現在、8割以上の建物が耐震性を備えている。残り2割の建物についても、2015年度完了を目標に順次、耐震補強工事を進める予定である。

(3) 防災・環境関連

防災、環境に関しては、それぞれ委員会を設置して学内体制や各種施策を企画・立案しており、適切に管理運営されている。

また、防災・省エネの観点から全施設を対象に安全・省エネ点検を実施し、快適な教育環境づくりに努めている。このような活動をとおして、キャンパス全体に安全・環境に関する意識の定着を図っている。

【質保証のための課題と継続的改善・改革に向けた方策】

キャンパスの将来計画に基づき、キャンパスの安全・衛生環境の保全に努め、学生に快適な学習環境を提供するため、以下の方策を進める。

- ◇施設、設備等の維持・管理については、これまでどおり管財部を中心に行い、必要に応じて委員会等を設置して全学的な体制でその運営に取り組んでいく。
- ◇耐震補強工事については、計画に基づき順次進めていく。
- ◇バリアフリー化については、今後とも順次整備を進めていく。
- ◇開学以来、周辺の里山の自然を保全しながら学内の環境を整備してきたが、今後も更に快適なキャンパスづくりに全学をあげて取り組んでいく。